

令和2年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

安浦中学校区 校番 33 学校名 呉市立安浦小学校

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童の育成 ～学ぶ つながる 役に立つ～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) ○ 自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童の育成 ○ 様々な人々と協働して、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 (ビジョン)(将来の学校像)予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となることと求められています。安浦中学校区は、よりよい小中一貫教育を通じてふるさとを愛し、よりよい社会を創るという目標を共有し、防災教育と地域に根ざした主体的な学びを推進し、地域と連携・協働しながら、未来の創り手として必要な資質・能力を育みます。
----------	--	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本年度は学校統合し5年目である。学校の使命である「学力の定着」と「社会性の育成」のための基盤づくりはもろろん、5年目としてスタートする学校として、学校文化の創造・継承や保護者・地域に信頼される学校づくりがさらに求められる。どの児童も「この学校へ通うのが楽しい」と思え、保護者・地域が「この学校へ通わせてよかった」と思えるような学校経営を行っていかねばならない。一昨年7月の豪雨災害で安浦は大きな被害を受けた。そこで、自分の命は自分で守る能力を身に付けるとともに、人や地域との絆の大切にし、ふるさと安浦の未来の創り手として、災害に強い町づくりを推進していく資質や能力を育成することが責務である。また、学力調査結果から、生きて働く知識・技能の確実な定着とともに、知識・技能を活用していく思考力・判断力・表現力の育成が課題であった。そのため、「チーム安浦」として全ての教職員がベクトルを合わせ組織的に取り組み、学校教育目標やミッション・ビジョンを具現化するために、「防災教育」「地域に根ざした主体的な学び」「児童に向き合える時間を確保する働き方改革」の充実を図っていく。
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に取り組む態度」「感謝・貢献」
------------	---

重点		評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)				自己評価					
		d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期	
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
**	【確かな学力の育成】 課題発見・解決学習を通して、学力の定着や向上を図り、主体的な学びを促す。 (貫)	思考を深める学び合いの場を工夫し、思考力・判断力・表現力を高める。	パフォーマンス課題を取り入れた単元構成逆向き設計シートを作成し、単元構成を工夫する。 「本質に迫るための発問」「考えるための技法の活用」「根拠を基に理由付けた発言や主張」を取り入れた授業づくりを行う。	単元末にルーブリックの達成状況を分析し、達成していると判断した児童の割合 活用力を問うテスト(国語・算数)で、平均が70点以上の児童の割合	80%						
*	【豊かな心の育成】 感謝と貢献の心を持ち、協働して取り組むことのできる心を育む。	安浦スタンダード(あいさつ・返事・靴そろえ・無言掃除)を徹底する。	「あいさつの花」を掲示し、パワーアップ週間等で自分からあいさつをした人数を意識して指導する。	10人以上に自分からあいさつができた児童の割合	80%						
**	【健やかな体づくり】 健康な体をつくり、自分の命は自分で守る力を身に付ける。	災害から自分の命を守る児童を育成する。	・『みんなで減災』一斉防災教室の期間、防災の日に合わせて避難訓練を実施し、教材を活用した防災教育を各学級で行う。 ・防災週間(7/5～11)を設け、防災意識を高める取組を行う。	「災害から自分の命を守ることができる」と肯定的に評価した児童の割合	90%						
*	【働き方改革】 業務改善と働き手の意識改革をする。	児童と向き合う時間を確保し、時間外勤務を縮減する。	会議の日程等を見直し、限られた時間で、効率的に業務を行うことができるようなタイムマネジメントを行う。 19時退校(水曜日は18時)を徹底する。 取組の重点を意識して業務を精選する。	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合 時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合	80%						